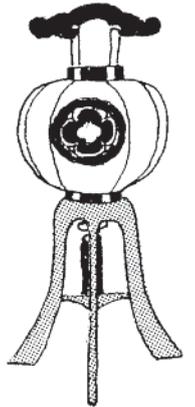
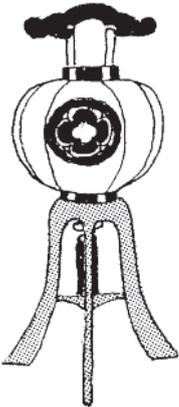


寶林精舎

《題字・森神紫陽》

平成23年初盆のお家

喪主	続柄	故人名	命日	享年	地区名
山本スミ子	夫	浅雄	平成22年 7月 5日	82歳	蒲江 尾浦
森下モキ	夫	満	8月 9日	82歳	赤木 栗林
後藤ノフエ	長男	武視	8月11日	62歳	赤木 長野
小野勝本	妻	弘子	8月20日	63歳	別府 石垣西
鳴海雄二郎	母	ケイ	8月30日	92歳	蒲江 尾浦
山本源義	母	ナツ	9月 7日	98歳	蒲江 尾浦
小野泰雄	父	健男	9月20日	80歳	仁田原 上の地
吉田博昭	母	昌子	9月22日	86歳	佐伯市 汐月
大竹正男	父	昭二	10月21日	84歳	横川 羽木
水久保雄二	母	キク江	12月10日	80歳	上直見 中津留
藤野郁子	母	柳井節子	12月22日	84歳	永代供養
三浦伸雄	母	ツヤ	12月31日	89歳	仁田原 大鶴
岩崎徳孝	妻	多美子	平成23年 1月 4日	74歳	赤木 堂師
戸高浅生	父	保	1月13日	86歳	仁田原 内水
安藤哲也	母	静代	1月28日	86歳	赤木 中津留
久保田キヨエ	弟	正	1月29日	66歳	仁田原 大鶴
凌ツタコ	姉	小野順子	2月15日	82歳	永代供養
小野美智治	母	郁代	2月21日	85歳	仁田原 上の地
三浦清弘	母	安子	3月 1日	87歳	仁田原 大鶴
平井清源	妻	美代子	3月 3日	71歳	仁田原 萱垣
御手洗貞子	夫	喜義	3月 5日	83歳	仁田原 岸の上
縁故者	縁故	鳴海絵三香	4月 5日	36歳	祠堂供養
柳井律子	夫	睦夫	4月11日	68歳	赤木 市屋敷
宮下浩一	祖母	幸枝	4月22日	96歳	上直見 仁所倉
吉田直純	妻	操	4月26日	59歳	大分市 田尻
小林亀	妻	八千代	5月 5日	85歳	仁田原 上の地
鉄山宗始	父	昌美	5月18日	76歳	仁田原 袖の原
小野幾夫	母	サツキ	6月 4日	90歳	仁田原 椀ヶ原
小野富生	母	ヨシ	7月 1日	87歳	仁田原 袖の原



第54号

正定寺花園会広報

平成23年夏発行 発行所 一部単価135円(非売品)

檀信徒数 直川地区：253戸 直川地区外：147戸

〒879-3104 大分県佐伯市直川大字仁田原 寶林山正定寺内

TEL0972 (58) 2190 FAX0972 (58) 2192

URL <http://syoji.com/> e-mail shoji@saiki.tv

住職 小原寿山

☆平成23年お盆参りの日程☆

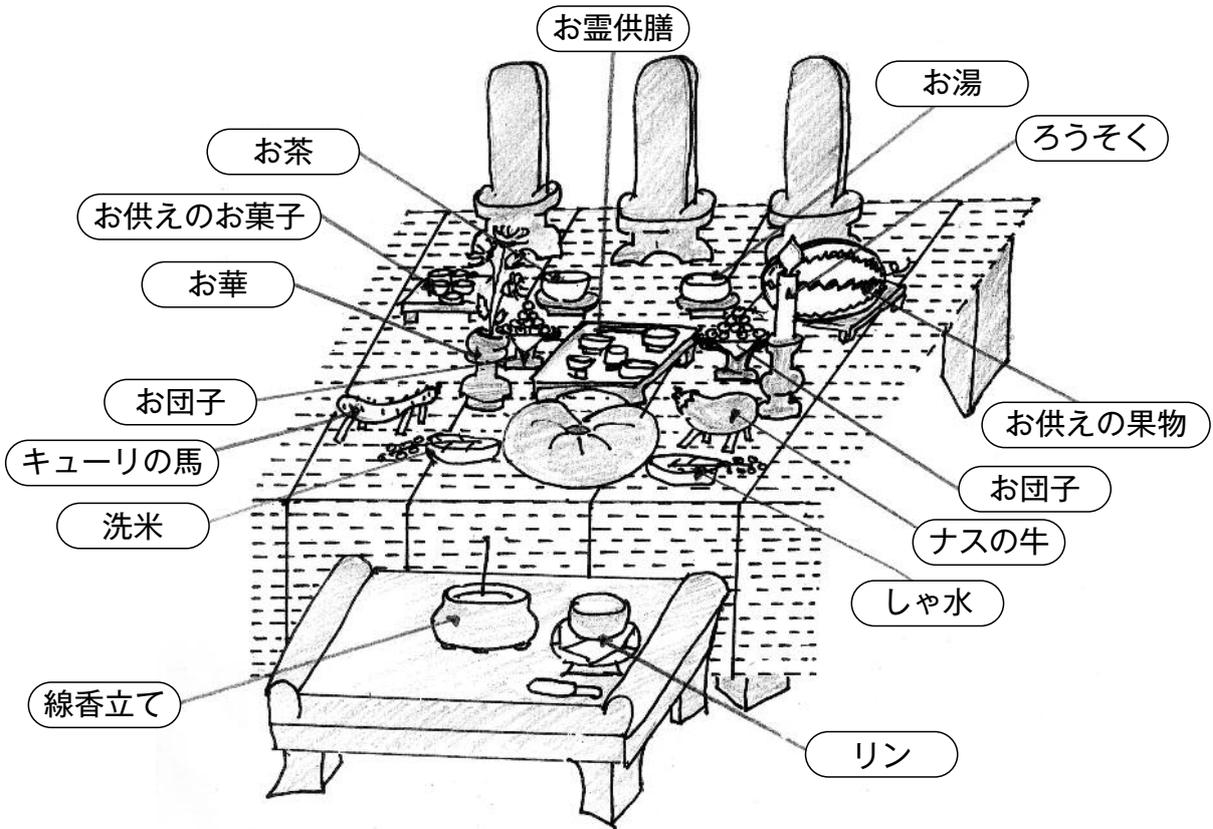
昨年とは日程や地区順が違います。お確かめください。

月 日	曜	日 柄		開始時間～終了時間	地 区
8月3日	(水)			午前9時～午後6時	細川内⇒道の内⇒吹原⇒ 中津留（赤木）⇒野の内
8月4日	(木)			午前9時～午後6時	栗林⇒向船場⇒水口⇒間⇒ 本匠⇒弥生
8月5日	(金)	塚日	煤掃き盆	午前9時～午後6時	下城⇒椈ヶ原⇒杭の内⇒内水
8月6日	(土)			午前9時～午後6時	長野⇒立箱⇒新中⇒久留須
8月7日	(日)	友引	池替盆	午前9時～午後7時	天津留⇒用來⇒寺の下⇒ 岸の上⇒上の地
				午前9時～午後7時	宇目町⇒三重⇒延岡市⇒日向市
8月8日	(月)	立秋		午前9時～午後6時	柚の原⇒黒岩⇒横川⇒羽木⇒ 蜷の崎⇒川又
8月9日	(火)	井戸・墓掃除		午前9時～午後6時	竹の下⇒園⇒中津留⇒間庭⇒ 江河内
8月10日	(水)			午前9時～午後6時	堂師⇒市屋敷⇒神の原
8月11日	(木)		花取り盆	午前9時～午後6時	大久保⇒萱垣⇒大鶴⇒学校下⇒ 神内
8月12日	(金)			午前9時～午後7時	旧市内A地区⇒宇佐⇒別府市
8月13日	(土)	精霊迎え盆・友引	草刈り盆	午前9時～午後7時	大分市⇒臼杵
				午前9時～午後6時	旧市内B地区
8月14日	(日)	孟蘭盆		午前9時～午後2時	畑の浦⇒尾浦⇒鶴見
				午後2時～午後7時	旧市内C地区
8月15日	(月)	孟蘭盆・精霊流し		午前10時～	直川内初盆各家（前ページ参照）
8月16日	(火)	精霊送り盆		午前10時～	位牌堂諷経各家
8月17日	(水)	盆明け			

お盆期間中のお知らせ

- ① 本年は新命和尚と加担僧の二人がそれぞれお参りする場合があります。始まりと終わりの時間はだいたいの目安して下さい。
- ② 昼休み（昼食時）にお参りする場合がありますのでご承知ください。
- ③ 葬儀や天候の都合で日程を延ばす場合は、午前9時までに地区世話人様にご連絡致します。
- ④ 直川内で雨天（大雨）の場合、足袋・衣が濡れていて、皆さまにご迷惑をお掛けします。座敷に上がらず、草鞋・合羽でお参りを致します。（軒先でのお勤めを致します。）
- ⑤ 台風などの延期に伴い14日の地区が16日以降に成ることが有ります。
- ⑥ 留守の家は外からお経を上げさせて戴きます。
- ⑦ 1日～16日の間は、盆中のため本堂を会場にしての葬儀が出来ませんので葬儀の場合は「自宅」もしくは「公民館」や「斎場」で行うようにご協力ください。又、伴僧（役僧）の手配が難しい場合がありますのでご了承ください。

基本的な飾り付け



- 御先祖位牌を中央奥に祀り、右側から古い御先祖さまから祀ります。
- 新亡家では、新亡位牌を中央に祀ります。この時ばかりは御先祖佛壇は閉じておきます。
- お華は、シキビでも色花でもホオズキでも結構です。



○檀家さんの中陰（四十九日）を終えたあと、奥さまからお手紙が届きました。

和尚さまへ

公園のバラは咲きほこり、吹く風に夏めいた気配が感じられます。いかがお過ごしでしょうか。

夫が旅立ち五十日が過ぎようとしています。その節はひとかたならぬお心遣いをいただき誠にありがとうございました。

あらためて厚くお礼申しあげます。

ひそかに一人さびしい未亡人を目指しておりますが、なにかと日常の雑務に追われるなか、ふっと寂しさが舞い降りて来ます。まだまだ不慣れな心持ちの毎日です。

いつの間にか、夫との三七年間の出来事は、全て幸せで楽しいものに書き換えられています。「死」とは、悲しみだけでなく、生きる力をも与えてくれる不思議なものに思えてきました。・・・（中略）季節の変わり目ですゆえ、くれぐれもお体を大切に過ごしてください。・・・

平成二十三年六月

今年もお盆の季節になりました。初盆は、亡くなった人をむかえる最初のお盆の事で、「はつぽん」「しんぼん」「にいぼん」などいろいろな呼ばれ方がされています。初盆を迎える人々にとっては、追慕の情が未だ覚めず、特別な意味を持った法要行事となります。

お盆のあれこれ

8月13日

むかえぼん
迎え盆
くさきりぼん
草切り盆

8月13日を「草切り盆・迎え盆」と呼びます。
牛馬を飼っていた頃、日が明けぬ朝早くから野山に出かけ、牛馬のエサ(草)を刈りに行った経験は有りませんか。
盆の間は、大切なご先祖さまをお迎えするので牛馬の世話をしなくて済むようにと、たくさんのおエサを蓄えるこの日を「草切り盆」と言います。

むかえび
迎え火

早めにお墓にお参りして、夕刻になると「迎え火」を灯します。この「迎え火」を門火・庭燎とも言います。
日没に自宅の門口で目印の松明を焚きご先祖を迎えます。松明の代わりに縁側に提灯を灯すところもあります。
古くは、提灯に火を灯してお墓までご先祖さまをお迎えに行っていました。間違つて14日にお迎えに行っているお家がありますが、ご先祖さまのお帰りは13日ですよ。

あらいおけ
洗い桶

13日の夕刻には、縁側の戸を開けて、帰ってこられたご先祖さまの足を洗うための「洗い桶」を用意します。
供養されない迷った霊は「お化け」といい、足が有りませんが、ご先祖さまは皆さまから供養されているので足が有ります。翌朝、「洗い桶の水が濁っている」と言うのは、ご先祖さまがお帰りになった証かも知れません。

ごえん
ご縁

さて、ご先祖さまが縁側から帰って来るには理由があります。みなさんの家で、生涯を過ごす大切な方の出入り口は全て縁側を正式としていたからです。
みなさんも嫁いでこられた時、縁側から入ってきませんでしたか。
お嫁さんに出すときも、お嫁さんを迎えるときも縁側を出入り口としていました。
「うちの娘もご縁があって〇〇家に嫁ぐようになりました」とは、ここから出た言葉なのです。
生涯をその家で過ごし、人生の臨終を迎えてお亡くなりになった時も、縁側から出棺して浄土へ旅立ちます。

きゅうりのうま
胡瓜の馬

年老いて足腰が不自由で、帰って来るのが遅いご先祖さまもいるかも知れません。そこで、胡瓜に竹の足をつけて馬に見立て、お墓にお供えます。これを「胡瓜の馬」と言います。
「馬に乗って早く帰って来て」と願う気持ちからです。
又、どんなに遅い方でも13日中には戻ってこれられると言われるので、縁側の戸を開めるのは13日の夜中12時過ぎ(14日)なのです。

こうじき
香食

13日の夜中、全員のご先祖さまが戻られた頃、仏壇にお明かりを灯し線香を立てます。
線香の香りがご先祖さまの最初のおもてなしです。中国では「香食」と呼んでいます。香りが死者の食べものなのです。線香立ての灰もきれいにしておきましょう。
灯したロウソクが揺らぐと「ホラ！帰って来られた」と昔の人は言っていました。

8月1日

みちつくりぼん
路作り盆

8月1日を「盆入り」と呼びます。文字通りお盆の月に入った事を示します。又、お墓や墓道の草切りを始める日なので、「路作り盆」とも言います。
日本でのお盆は、推古天皇十四年(606年)の7月15日(中元)に行なったのが最初と言われています。現在の日本では、7月盆と月遅れ盆(8月盆)とあり、東日本は7月盆が多く、西日本では8月盆が多く見られます。九州でも宮崎や熊本・沖縄の一部を除いては、8月にお盆の行事を行っています。旧暦の7月15日に行なう地方もあります。

8月5日

すすはきぼん
煤掃き盆

8月5日を「すすはき盆」と呼び、お盆の準備のために、家のスス払いや掃除をします。遠くで働く家族や親戚がお盆には戻ってきます。この日からそろそろお嫁さんは忙しくなります。

8月7日

いけかえぼん
池替え盆

8月7日を「七夕」・「池替え盆」と呼びます。
お盆が近づくこの日は、身の回りをきれいにする日とされています。昔から体を清るために沐浴(水浴び)をしたり、髪を洗ったり、牛馬に水浴びをさせたりしました。
水浴びを「ねむり流し・ねぶた流し」などと呼ぶところもあります。青森の「ねぶた祭り」もご先祖を迎える準備として、身の回りの「邪気(睡魔)」を追い払い清める行事です。
水に流すことで願い事を叶える風習は、7月7日の「たなばた」の行事からもうかがえます。
又、「池替え」とは井戸さらいの事で、井戸の掃除や墓の掃除から仏壇の位牌や仏具まで、きれいに洗い流す日とされています。中国では、墓参りを「掃苔」と呼びます。文字通り墓に付いた苔を取り掃く事です。新盆を迎える家は、この日から飾り付けを行います。新盆供養の盆提灯もこの日に間に合うように送ります。

8月11日

はなとりぼん
花取り盆

8月11日を「花取り盆」と呼びます。
お盆のお仏壇やお墓にお供えする花を準備する日の事です。
花は「檜・櫛・シキミ」の事です。木偏に佛と書いて「シキミ」・木偏に神と書いて「サカキ」と読みます。仏さまにお供えする花は、「シキミ」・神さまには「サカキ」です。「シキミ」を「シキビ」と訛って私たちは呼んでいます。もともと、「シキミの木」は毒性が強く、土葬した遺体を野犬やおおかみ等の野獣から守るために、用いられました。お墓にシキミを供えるのはこうした理由からです。ヒノキなどの新芽を食べる鹿もシキミの新芽は口にしません。毒があることを知っているからです。この日に準備した花(シキミ)を水に浸し、花が十分に水を吸い上げた頃に、仏壇やお墓にお供えすると長持ちすると言います。

水の華

なすび等の生野菜・米・小豆などを混ぜた物を「水の華」又は「水の子」と言いお墓に撒いてあげます。餓鬼道に落ちた亡者は、十分な食べ物を与えられず、体は痩せ細り、喉は極端に細くなっていると言われます。喉が細いので「水の華」は、食べやすいように細かく刻んでいます。又、水の華や線香は残っても決して持ち帰りません。ご先祖さまへの供物は、亡き父・亡き母への供物です。持ち帰ると、「もったいない」と言う欲心があるように思われるからです。親への恩返しに損得はありません。昔の人は、「残った「水の華」に餓鬼が付いて来るから」とそれとなく戒めていました。

留守墓参り

お盆の間、誰からも供養されない餓鬼がご先祖さまがいない留守の墓に寄りついているので、ご先祖さまの代わりに、浮かばれない霊に供養するのが「留守墓参り」です。自分だけではなく他の人も救いたいと願う心は、お盆の由来そのものの教えです。禅宗では「まず他の人を救い、その功德で自らも救われる」と言う法要が有ります。これを「施餓鬼会」と言います。「情は人の為ならず」の格言と同じです。正定寺も江戸時代は、7月1日～15日の間は施餓鬼棚を設けて供養がなされていたと記録が残っています。現在は月遅れの8月1日～15日に各家へのお参りになり、「施餓鬼会」は9月の彼岸に法要がなされています。

精霊流し

西方丸と書いた小船に供養の品々を供え15日の深夜に川や海に流す風習を「精霊流し」と言います。ご先祖さまの霊は、「送り盆」の16日夜明けに、東から昇る太陽と共に西の西方極楽浄土に無事にお帰りになると言われています。16日送り盆の夜明け、沖に昇るお日さまに間に合うようにと15日の深夜に流します。直川村では、16日の早朝(夜明け前)にお供えした団子や果物などを川へ木板に乗せて流すのが一般的です。

8月16日

送り盆

8月16日を「送り盆」と言います。15日に送る家もありますが正式には16日です。

茄子の牛

茄子に竹の足を付け牛に見立てて仏壇に飾ります。これを「茄子の牛」と言います。牛に乗って「ゆっくり戻って下さい。」と別れを惜しむ風習です。

土産の団子

浄土へお戻りになるご先祖さまの「土産の団子」は、少しでも多く持ち帰りが出来るようにと、平らに作ります。丸団子では積み重ねが難しいからです。又、多く担げるようにと「じがるい豆」と言う細長い豆もお供えします。この豆は、束ねたり又担ぎ籠の縄となるように持たせます。

送り火

16日の日没にお墓で松明を灯します。この火を「送り火」と言います。ご先祖がお帰りになる場所を示す目印の明かりです。歩くのが遅いご先祖さまも日が沈む頃には無事にお帰りになると言われています。京都の大文字焼きは「送り火」の事です。これで、3泊4日の里帰りが終わります。

知ってましたか?



盂蘭盆

8月14日・15日

8月14日と15日を盂蘭盆と言います。

「盂蘭盆経」と言うお経の中には地獄(餓鬼道)に落ちて苦しむ母を救うために、僧侶のお経と「飯・百味・五果」などの馳走を棚にそなえ、その功德を以て救われたと説かれています。

地獄での苦しみは、まるで「逆さ吊り」にされているような苦しみ(倒懸苦)と言われ、この「倒懸苦」をインドの言葉で「ウラバーナ」と言います。「盂蘭盆・うらぼん」の語源です。

私が修行道場にいた頃も、4月15日から7月15日迄の3ヶ月を雨安居と言ひ、その終わりの日(7月15日)を「僧自恣の日」と呼び、寺院では「施餓鬼会」が行われます。お盆の行事はこの仏さまの教えが基になっています。

精霊棚

お盆は特別に「精霊棚」を飾ります。「精霊棚」は、仏間の縁側に設けていました。

この棚を「施餓鬼棚」とも言います。和尚さんは「精霊棚」に向かって「お施餓鬼」のお経を唱えます。

今でも、お盆に和尚さんがお参りすることを「棚経」と言います。皆さんの中には、この「施餓鬼棚」でお迎えしていた頃を覚えている人は有りませんか。

納屋の隅にこの「施餓鬼棚」がある家はありますか。

お盆の正式な祀り方は、「施餓鬼棚(精霊棚)」を縁側に飾り付けるものでした。

生霊供

生霊供の材料とは、なすび・トウキビ・芋・瓜・洗米など火を加えずには食べられないものです。

これは、餓鬼道に落ちた者は、「食する物が全て火になる」と言われ、生米などの生の穀物を口にするると口元で火が加わりちょうど食べ頃になると言われるからです。

餓鬼はいつも口の中が燃えさかり、ノドが渇くとされています。水の力で「邪気を洗い流す・水で炎を消す・水でノドの渴きを治める」ところから、精霊棚には水が注がれた大きな器が備えられて、水が散けるようになっています。

又、この水を「アカ(闍伽)」と言います。中国の言葉で「供養」と言う意味です。お墓に水を散くのもこうした理由があるからです。

お供え

お供えは、年忌法要の時と同じように「お霊供膳」・「団子」・「菓子」・「果物」・「茶」・「湯」・「水」と共に、特別に灯笼提灯に見立てて「灯笼菓子」・「ホウズキ」、又畑で採れた「なすび・カボチャ・トウモロコシ等々」をご先祖さまに感謝を込めてお供えします。

平成23年 大般若会



参拝者

平成23年1月20日の午前11時より恒例の「大般若会法要」が行われました。朝から花園会役員や女性部が仕事を休んでお手伝いしていただきました。用意されたくじ引きが足らなくなるほどで本堂は200名の参拝者で一杯になりました。法要後には「定例檀信徒総会」が開かれ花園会員で米寿や成人を迎えられた方々にお祝いや本山からの祝辞が披露されました。今年のお米寿は15名・新成人は20名でした。皆さんおめでとうございます。



大般若法要



2番座の世話人さま・・・ご苦勞様でした



檀信徒総会で挨拶する小野総代



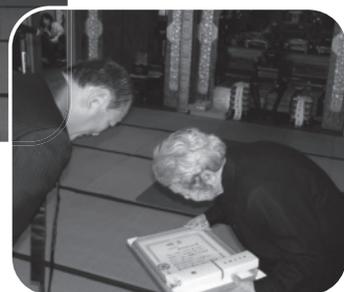
花園会役員と花園会女性部の集合挨拶



午前花園会役員と花園会女性部の集合挨拶



米寿のお祝い



米寿の皆さん	
吉内喜代	江河内
松下吉郎	上の地
三浦ツジ	大鶴
御手洗シズエ	江河内
小野二三子	神内
足立サミ子	神の原
長田秀夫	細川内
小野イセ	黒岩
杉野ハツエ	久留須
甲斐マサコ	間庭
柳井為義	向船場
岡田トモエ	柚の原
佐竹正光	久留須
高橋カズエ	吹原
戸高ツユ子	内水

新成人の皆さん	
大竹奈美	羽木
佐脇卓	杭の内
鳴海恵子	宇佐
村西恵輔	神内
吉田美奈	江河内
小野友莉香	大分市
竹田充臣	大分市
立箱純陽	神内
小野知佳	大分市
鳴海千波留	尾浦
山内祐弥	吹原
木下良太郎	尾浦
甲斐まい子	江河内
岩崎翔太郎	弥生
橋本芽衣	上の地
吉田貴博	弥生
三根慶士	佐伯市
富高翔平	尾浦
植田沙和	上の地
川野咲季	堂師

第8回正定寺杯グラウンドゴルフ大会

平成23年3月21日（月）に春の彼岸法要にあわせて「第8回グラウンドゴルフ大会」が直川苑グラウンドで行われました。雨の予報でしたが幸いにも大会中は雨が降らず終了と同時に雨が降り出しました。檀信徒は口々に「おかげさま」と言っていました。

今回の大会は最高齢86才の方を含む33名が元気にプレーしました。
柳井久美子さん（花園会女性部事務局）の司会で開会式が行われ、甲斐久仁子さん（花園会女性部部长）の挨拶と山中清さん（直川苑事務長代行）の歓迎挨拶、矢野侃可さん（花園会女性部顧問）の競技説明と続き第7回優勝者の岩切ヶサ子さんの代わりに

ご主人の岩切初さんが選手宣誓を行いました。個人優勝は簀戸功吉さん（久留須）、準優勝は大司八郎さん（久留須）そして3位は小野シマ子さん（久留須）が獲得しました。1位から3位まで久留須の方々が独占した大会でした。



山中清さん（直川苑事務長代行）の歓迎挨拶



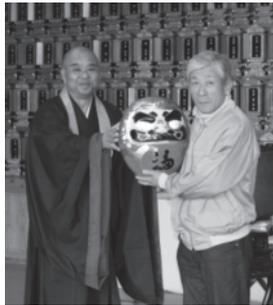
甲斐久仁子さん（花園会女性部部长）の挨拶



岩切 初さんの選手宣誓



左から竹尾トモ子さん・大竹琴美さん・三浦伸一さん・山田牧江さん・河野豊美さん



優勝の簀戸功吉さん（久留須）



準優勝の大司八郎さん（久留須）



3位の小野シマ子さん（久留須）



左から五十川キミエさん・小野幾夫さん・飛田照子さん・矢野薫さん・大畑記美代さん



左から吉田礼子さん・星野延子さん・小野浩伸さん・矢野侃可さん・山田佐一さん・大司八郎さん



左から尾形キミエさん・簀戸功吉さん・小野波子さん・久保田キヨエさん・小野シマ子さん



左から岡田喜敏さん・飛田禮子さん・渡辺昭子さん・古元聖人さん



左から岩切初さん・河野林さん・柳井登志子さん・竹下好子さん



左から柳井順一郎さん・戸高茂子さん・御手洗好子さん・川野久美子さん

平成23年 春彼岸法要と初午法要

平成23年3月21日（月）お彼岸の中日に春彼岸会法要と初午会法要が午後1時から行われました。

位牌堂には各種信徒から回向袋がお供えされて約60名の参拝者で法要が営まれました。

最初に先の「東北地方太平洋沖地震」で被災され亡くなられた方々へ読経が手向けられ参拝者全員で焼香してご冥福を祈りました。

又、被災地の復興を願ひそれぞれが手を合わせていました。



「東北地方太平洋沖地震」で被災され亡くなられた方々へ読経



焼香を手向ける参拝者



本山布教師：横関政徳和尚さま



花園法皇御宸翰を拝読する
本山布教師：横関政徳和尚さま



春彼岸会法要と初午会法要



お説教に聞き入る檀信徒

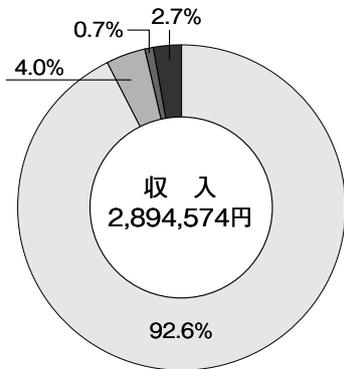
献茶会と平成23年度定例女性部総会及び平成23年度定例世話人総会



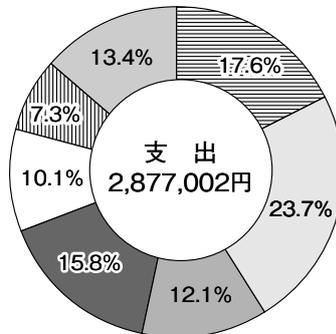
総会に参加した皆さま

平成23年6月26日（日）午後2時から献茶会がご先祖をお祀りする位牌堂で行われ女性部が法要に参拝いたしました。
 法要の後は平成23年度定例女性部総会が本堂で行われました。午後7時30分からは花園会役員による献茶会と平成23年度定例世話人総会が行われました。

平成22年度 花園会会計決算

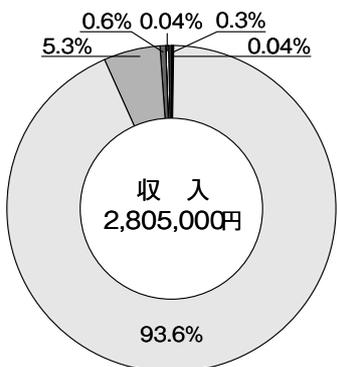


- (単位名：%)
- 護持金
 - 寄付金
 - 繰越金
 - 諸収入

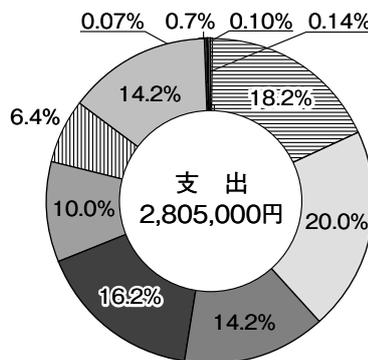


- (単位名：%)
- 宗費
 - 護持費
 - 年中行事費
 - 事務費
 - 教化布教費
 - 諸支出金
 - 公課共済費

平成23年度 花園会会計予算



- (単位名：%)
- 護持金
 - 寄付金
 - 祭壇収入
 - 諸収入
 - 繰入金



- (単位名：%)
- 宗費
 - 護持費
 - 年中行事費
 - 事務費
 - 教化布教費
 - 諸支出金
 - 公課共済費
 - 財産管理費
 - 償還金・負担金
 - 祭壇管理費
 - 予備費



世話人役員の皆さま



総代会長の挨拶



女性部総会で平成22年度の行事・決算を報告する女性部役員



晋山式特別会計からは現状の準備経過や浄財の報告がされました。



午後7時30分からは花園会役員による献茶会



位牌堂には新茶がお供えされています。

《正定寺花園会役員名簿》

- 花園会役員（檀徒総代） 甲斐 照光
- 花園会役員（檀徒総代） 小野 永生
- 花園会役員（檀徒総代） 御手洗晴視
- 花園会役員（檀徒総代） 安藤 廣美
- 花園会会計・事務局 村西 栄二
- 花園会会計・事務局 戸高 直人
- 晋山式特別会計・事務局 甲斐久仁子
- 花園会女性部部長（第二部女性部副部長） 安藤リヨ子
- 花園会女性部副部長 川野久美子
- 花園会女性部副部長 柳井久美子
- 花園会青壮年部長（第二部青壮年部副部長） 小田木聖孝
- 花園会青壮年副部長 安藤 博光

《正定寺花園会地区世話人名簿》

- 内水地区 戸高 浅生 市屋敷地区 柳井 百人
- 桃杭地区 飛田 照子 堂師地区 羽明 忠義
- 岸の上地区 羽田 忠夫 野の内地区 川野 貴重
- 上の地地区 植田 純市 立長地区 立箱 和人
- 細川内地区 小野 浩伸 中道地区 安藤 慶喜
- 袖の原地区 染矢 博正 吹原地区 山内 一平
- 黒岩地区 小野 力 久留須新中地区 簗戸 功吉
- 大鶴地区 三浦 伸一 竹園地区 竹中 裕子
- 羽木蟻地区 大竹 正男 江内道越地区 甲斐 龍太
- 神の原地区 尾形 利勝 尾浦地区 鳴海 由久
- 神栗地区 森下 修 旧佐伯地区 仲宮 哲男
- 花園会会計監査委員 竹中 裕子
- 花園会会計監査委員 植田 純市
- 花園会女性部会計監査委員 小野 宣子
- 花園会女性部会計監査委員 柳井 政子
- 晋山式特別会計監査委員 久保田 成子
- 晋山式特別会計監査委員 柳井 百人

※花園会地区世話人はその年度末（3月31日）までお世話を頂きます。

山林立木売払説明会

平成23年1月27日午前10時より正定寺所有山林にある立木の売却入札の現地説明会が寒い中でしたが「各社担当者」に集まっていただき行われました。

平成24年11月の晋山式費用の一部にこの山林収入が充てられます。

30年前の晋山式にも同様に入札がありました。が、昨今の山林状況はとても厳しく各社にはなるべく高値の入札をお願い致しました。



業者は今後入札に向かって独自の立木調査を行います



各林産業者に今後の説明を行う

第4回 黄龍窟杯グラウンドゴルフ大会

平成23年3月11日（金）に直川源六原グラウンドで「第4回黄龍窟杯グラウンドゴルフ大会」が行われました。

このグラウンドゴルフ大会は九州東教区第2部の主催で行われ13ヶ寺から147名29チームが参加しました。

「黄龍窟」とは平成20年3月7日に亡くなられた養賢寺新命安藤秀峰老師の室号（呼び名）です。

養賢寺の住職になった年からお祝いにと「黄龍窟杯」が行われるようになりました。

遷化（亡くなる）後には老師を忍



参加者



優勝の古元聖人さん



▲準優勝 正定寺Bチーム



◀ 3位 正定寺Aチーム

ぶ大会となりました。

正定寺から3チーム15名と応援団2名が奮闘してしました。

見事に個人優勝を古元聖人さん（74歳・竹の下）が獲得しました。

又、三浦伸一さん（67歳・大鶴）も入賞しました。

団体は正定寺Bチームが準優勝・正定寺Aチームが3位に輝きました。

又、この日は東北地方太平洋沖地震が起こり、大会を終えて被災の大きさに誰もが驚きました。

山林立木売払入札会

平成23年2月10日（木）
午後1時より正定寺書院で
「山林立木売払処分」の入
札が行われました。

定刻に業者確認から入札
要領説明などが厳肅かつ手
際よく行われ、入札書が集
められて最高入札額と落札
業者がその場で告げられま
した。

落札業者は最高価格を入
れた「佐伯広域森林組合」
に決まりました。

総代も「予定価格」を越
えた入札金額に『檀信徒に
明るい報告が出来る』と一
様にホッとしていました。

又、他の業
者も予定金額
を大幅に上回
る入札金額を
積極的に示し
ていただきま
した。各業者
には心より感
謝申しあげま
す。



入札



業者（左）と正定寺総代（右）



安藤総代による入札の説明

正定寺山林（古屋敷）の伐採が始まる

平成23年4月20日から「古屋敷」の
山林伐採が始まりました。

先の「山林入札」において落札した
「佐伯広域森林組合」が入山しました。
これから搬出用道路の整地が始ま
り、約2ヶ月かけて杉・桧など180
0本が伐採されて再造林されます。

正定寺の山林がある「古屋敷」は、
天正年間（400年前）に赤木から正
定寺が再建された場所です。

細川内の正定寺跡地なので「古屋敷」
と言う地名です。

五輪塔など多数の石塔が跡地には点
在しています。

貞享4年（1687・324年前）



◀ 入山諷経

▼ 「山の神」へ
献酒を供える



佐伯藩主毛利公より仁田原村西方高地
（現在地）に東西25間・南北14間の現
在地を賜り、元禄4年（1691・3
20年前）に古屋敷の古材を使って庫
裡を再建。元禄8年（1695）には
上の地（現在地）に本堂を再建しまし
た。

今回の伐採入山に際して諷経を行
いました。

晋山式の準備

晋山式準備の工事は着々と進んでいます。正式参道（石段）の改修工事も9割終えています。屋内工事も先の震災で少し遅れていますが、今年の暮れには全てが終わる予定です。来年の大般若会にはテント設営をしなくてもすむようになります。足の不自由な方や正座が苦手な方のためにフラットな板間が出来ます。

お知らせ

晋山式準備のために行われている、屋内工事が震災の影響などで予定より遅れています。今年中は正定寺本堂を使つての葬儀が出来ません。正定寺本堂を使つて葬儀を希望する檀信徒の皆さまには、大変ご迷惑をお掛けいたしますが何とぞご了承ください。



工事前の階段



工事後の階段



典座（台所）改造工事



足の不自由な方や椅子を希望の方用の客室

